

第6日

令和4年6月14日（火）

午前10時零分開議

○議長（半田雄三君） これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は18名で、会議は成立いたします。

議事日程表をお開きください。本日の議事日程については、タブレットに掲載のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、一般質問を行います。

質問通告者及び順位は、タブレットに掲載のとおりであります。申し合わせにより、1人当たりの質問時間は答弁時間を含めて60分以内となっております。御了承願います。

一般質問通告書をお開きください。

それでは、最初に10番中島秀樹議員の質問を許可します。10番中島秀樹議員。

（10番中島秀樹君登壇）

○10番（中島秀樹君） 皆様、おはようございます。質問の許可を得ました10番議員、中島秀樹でございます。

議長に確認をしましたところ、この質問席とこの登壇のときはマスクを外していいということでしたので、マスクを外させていただきました。少しずつ環境が変わりつつあるんだなあ、本当によかったなあというふうに思っております。

今日は、たくさんの傍聴ありがとうございます。予想外に来ていただいて、びっくりしております。私は一般質問をよくやらせていただいているんですけども、久々の一番くじを引かせていただきました。やっぱり1番というのは非常に緊張いたしまして、プレッシャーがかかります。

毎朝、めざましテレビの星座占いを見ているんですけども、私のかに座は、今日は8番目でした。真ん中ぐらいでいいのかなと思っております。これは、一番下の最下位とかだったら、多分、少し心理的に影響を受けていたのかなと思います。

朝、今日早く起きて、原稿の準備をしていたわけなんですけれども、新聞を取りに行きまして、新聞を見ますと、私は日経新聞を愛読しているんですが、1面に「円安98年危機以来の水準」ということで、新聞記事が出ておりました。98年といえば、日本長期信用銀行とかそういった金融不安とかが起きた時代なんですけれども、それ以来の円安だということ、非常に私も心配をしております。

日本を代表する文芸雑誌に文藝春秋というのがございます。この文藝春秋のほうにも「インフレ地獄に覚悟せよ」というようなおどろおどろしい経済評論家の方の記事が出ております。これからインフレの世の中になって、厳しい時代が来るのかなあというふうに心配をしております。

この日経新聞の記事によりますと、98年の頃の円安とは随分環境が違うということが書

いてあります。どこが違うのかというと、一番心配をされているところは、日本が競争力をなくしているということです。これが心配だということです。「日本は今まで長い間の不況に苦しんできて、投資が十分にできていない。だから競争力を失っている」というようなことが書いてあります。

朝倉市も競争力を失わないように何をしたらいいのか、この後、質問席より質問をさせていただきます。

(10番中島秀樹君降壇)

○議長(半田雄三君) 10番中島議員。

○10番(中島秀樹君) では、通告に従い、質問させていただきます。

今日は教育課のほうパネルを用意してくださっているということを朝、聞きまして。質問の順番を変えたいと思っております。

交通利便性を向上させる、朝倉市の教育を魅力あるものにする、良質な住環境を整える。この順番で質問させていただきたいと思っております。朝倉市が発展するために何をしたらいいのか。3月議会の積み残しの部分の続きの質問をさせていただきたいと思っております。

私は、人口減少の中で、人口を維持し増加させるためには、対策ではなく政策という発想が重要だと考えております。対策は、どうしても現実対応になってしまいます。それは、今、目の前にある問題を何とかしたいという一心で取り組むことを意味します。どうしても近視眼的な見地からの行動になってしまいます。一方で、政策は未来志向です。朝倉市が発展するために、長期的な視点で何をしたらいいのかということを、私なりに考えております。

そういった中で、まず朝倉は交通の便が悪いと。昔は陸の孤島だと言われておりました。交通の便が悪いよりはいいに越したことはありません。私は、朝倉市には地の利があると考えております。福岡市まで直線距離で35キロ、車で約40キロ、1時間ほどで行ける近さにあります。

私は、日曜日に天神に久々に行ってまいりました。大きなビルがいつの間にか建っております、たくさんのビル工事が行われておりました。

若者たちが行き交う天神の四つ角、学校帰りの女子高生の姿も目立つ博多駅前広場、若い女性向けの人気店が軒を連ねる西通り、人口の増加数、増加率で政令指定都市トップを走る元気都市・福岡は、若者の多いまちでもある。

総務省による2015年国勢調査の結果を基に、福岡市が政令指定都市の10代、20代の人口を比較した資料によると、福岡市は10歳から20歳の若者人口が市内人口に占める割合が22%で、20政令指定都市第1位です。天神博多地区の都市開発の動向次第では、依然として若者を呼び込み続ける可能性を秘めています。

昨今、動き始めた天神地区の再開発事業「天神ビッグバン」では、既存の延べ床面積が

1.7倍へ拡大し、雇用者数も従来の4万人から2.4倍の9万7,000人に増加する見通しです。

博多駅周辺の再開発事業「博多コネクティッド」では、延べ床面積が1.5倍の約50万平米へ拡大し、雇用者数も1.6倍の約5万人への増加を見込みます。

商業、情報、サービス主体の産業構造を特色とする福岡市は、一連の都市開発の発展によってさらに雇用が拡大していくと、九州一円にとどまらず西日本一帯、さらには東アジアからも若者らが就職先として選択することも考えられる。依然として福岡市は若者のまちであり続ける可能性を秘めていると考えます。

私も日曜日に天神に行ったと言いましたけれども、非常に活気を感じまして、このまちは大きく変わろうとしているんだなというふうに思いました。

また、皆様はニュースで読まれたことがあると思いますが、熊本の菊陽町というところにTSMCという台湾の大手半導体のメーカーが参ります。これも熊本というのはいろんな誘致活動とかもやっていたけれども、アジアに近いということが大きな要因の1つであると考えています。中国や韓国に近いと、こういうことも考えられると私は思っております。

アジアの玄関口としても福岡は大きなポテンシャルを持っております。そういった福岡に近いという地の利を生かして、朝倉市はこれから発展をしていくポテンシャルがある、潜在能力があると考えております。

では、質問をさせていただきます。

私は、朝倉市は福岡市に近いという地の利を生かして、福岡市への交通の利便性や久留米市へのアクセスの向上が最重要の条件だと思っております。現状の交通のアクセス、母都市へのアクセス状況というのはどのようになっていますでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 福岡市へアクセスする公共交通手段としましては、甘木鉄道、西鉄甘木線、高速バス、路線バス、4つの手段があり、いずれの交通手段も福岡までの所要時間は、甘木からおおむね1時間前後となっております。

新型コロナ感染拡大前の各公共交通機関における1日当たりの運行便数及び乗降者数は、甘木鉄道甘木駅が42本で1,390人、西鉄甘木線甘木駅が38本で1,238人、バス利用者はICカードの利用者のみの調査結果ですが、高速甘木バス停が90便で60人、甘木営業所バス停が65便で約200人であります。

利用者数の推移については、令和元年度とその10年前の平成21年度とを比較した場合、甘木鉄道甘木駅では15.6%増加し、西鉄甘木線甘木駅では14.7%減少しております。

利便性については、平成15年6月から運行を開始した西鉄バス甘木営業所発の博多行きが運行当初より運行便数が微増したほかは、コロナ禍での減便を除き、ほとんど変わっていない状況でございます。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） どちらかという印象としては、横ばいか少し増えているのかなという印象を持ったんですけれども。そういった中で、私は甘鉄というのは、駐車場がただで止められまして、広い駐車場もあります。また、軌道でもありますので、時間も読めるということで大事にすべき鉄道だと考えているんですけれども、甘鉄の乗り継ぎとといいますか、待ち時間が長いなど感じておりまして。こここのところをもう少し改善できないかなと思っております。これについて、もう少し改善はできないんでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 鉄道間の連絡を改善するために、これまでも例えば、西鉄小郡駅であったり、もしくはJRの基山駅であったりのダイヤ改正のたびに、接続のためにダイヤ改正を甘木鉄道のほうも行いまして、なるべく待ち時間を少なくするような改善を行っております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） そうしますとソフトの面、ダイヤの部分を非常に効率よく組んでやっているけれども、これ以上は利便性が上がらないと私は理解をいたしました。そうなりますと、私はハードの部分で何か手が打てないかなというふうに考えております。

そういった中で、昔からよくある話なんですけれども、私は、甘鉄を乗ります西鉄への乗り継ぎ、小郡駅で乗り降りする方は、かなりいらっしゃって、西鉄の利用者は多いと思っておりますが、西鉄電車と甘鉄の各ホーム、これを直接つないで直接連絡するような、そういったことができないかと考えるんですが。もちろん、これは費用がかかりますし簡単な話ではないと思うんですけれども、そういうことができたなら一段と利便性が上がって、甘鉄沿線の住宅あたりが増えて、甘鉄の乗降客も増えるし、朝倉市にとっても通勤で便利になったりとか、家を建てられたりする人が増えるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 議員がおっしゃいますように、定住人口を増加させたりするために交通利便性の向上は必要な条件の1つだというふうに考えております。

しかしながら、現在、甘木鉄道は新型コロナの関係で運賃収入が大きく減少し、経営状況が厳しい上、これから車両更新が控えていたり、またバリアフリー対策などの施設設備にかかる諸課題も抱えております。

将来を見据えた大規模事業として、この連絡通路等の整備については、かなりハードルが高いものだというふうに認識しております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） まず、車両の更新というお話が出ましたけれども、やはり鉄道ですから、安全に走らないといけません。そのためには、車両の更新が必要。これは基本中

の基本で、必要なことだと理解いたします。

また、朝倉市のほか周辺の自治体の人口構成を見ますと、若い人よりも年配の方が多だろうと想像できますので、バリアフリー、階段をお年寄りの方とか年配の方が、つらい思いして上よりもエスカレーターなりエレベーターがあつて、楽に乗り降りができる。これがある意味、顧客のニーズに合っているのかなと、必要なことなのかなと考えます。

そういったことを考えますと、優先順位でいくと、車両更新であつたりとかバリアフリーが優先順位としてはどうしても高くなるのかなと。しかもコロナであつて、収入に限りがあるということであれば、設備投資は難しいのかなと思っています。やはり、優先順位に従つて、歳出を切り替えていくというのは必要ではないかなと思っております。

ただ、車両を更新するのは当たり前のことですし、バリアフリーというのも大事なんですけれども、先ほど言いましたように、生産的な投資といいますか、将来に大きな成果が望まれる投資というのは、やはりやっついていかないと。先ほども登壇しまして言ったように今の日本ではないですけれども、将来的な投資というのも、私は必要ではないかなと思っております。

将来的な投資をしないことによって衰退してしまつて、また新しい将来的な投資ができなくなるという悪い循環に入る可能性もありますので。やはり、次の時代に向けた投資をやっついていかないと、本当に余力を失つていくと考えます。

甘木鉄道は朝倉市だけではなく幾つかの市町村から成り立つ鉄道ですけれども、私は、これの投資をすることによって、その市町村にもメリットがあるのではないかと考えているんですが、話合いをすることというのはできないんでしょうか。どういった話合いが必要でしょうか。お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） おっしゃいますように、交通利便性を向上させるということは、定住人口等の増加を目指す本市につきまして有効な手段と考えております。

先ほど投資という話がございましたが、これまでも通勤通学帯への増便のほか無料駐車場設置など、可能な分野での営業努力をやっているところであります。

近年では、西鉄馬田駅の駐車場整備ですとか朝倉インターチェンジ駐車場の整備を進めるとともに、市内の駅や主なバス停に駐輪場を設置したところであります。引き続き鉄道やバスを利用しやすくするための利用環境の整備を推進していきたいと思っております。

しかし、本市と福岡市とを結ぶ鉄道やバスは、民間事業者が独立採算制の下に運営がなされているものでございます。ですので、運行便数の増便など輸送サービスの拡充は、収益性や採算性が見込めなければなかなか実施されないと。市が要望してもなかなか実施されない状況がございます。

第三セクターであります甘木鉄道であっても、経営環境が厳しさを増す中、駅の整備やICカードの導入など巨額の事業費を要する新たな設備投資は、事業費の一部を負担する

こととなる沿線自治体の合意形成も必要となってまいります。事業者だけではなく、沿線自治体との協議も必要となってまいります。

また、朝倉市における鉄道や路線バスの経営環境は、他の地方都市と同様、非常に厳しく、コロナ禍による利用者減がさらに追い打ちをかけている状況であるというふうに聞いております。

このようなことから、本市としては、西鉄や甘木鉄道の交通事業者との密接な連携を図り、既存の交通手段を維持存続させるための取組を充実させていきたいということを、最優先に進めていきたいと考えております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 民間事業者、小郡駅は西日本鉄道の駅ですので、そういった採算面とか収益性というのが大事だというのは、よく分かりました。

ただ、鉄道事業のほうも、やはり人口減少の中で乗り手が少なくなっていく中で、何もせずにじっとしているというわけにはいかないというふうに思っております。そういった意味で、お互い知恵を出し合って、自治体と民間鉄道事業者が共存共栄できるような、そういった仕組みが必要ではないかというふうに考えております。

西日本鉄道との、民間事業者との情報交換、こういったことはきちっとされているのでしょうか。定期的にされていますでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 公共交通における協議等は、その連絡協議会等を設置して、これまでも行ってきておりますが。また、例えば西日本鉄道でありますと、そのバスや電車等の路線等の協議また施設整備の協議等において、必要に応じて話し合いをさせていただいております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 例えば、先ほど出ました甘木営業所発の、博多行きの400番のバスです。あれは非常に、私も何回か乗ったことがあるんですけども、使い勝手がよくて便利だなあと思っております。朝のラッシュ時は別でしょうけれども、夜とかだと1時間ちょっとで帰り着くことができますので、本当に便利だなあと思っております。

そういった意味で、こういった工夫をして新しい路線とか、新しい仕組みというか。そういったのを話し合っ出すということはできないのでしょうか。この400番のバスというのは、どういった経緯で生まれたものなのでしょうか。御存じでしたら教えていただきたいと思っております。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 甘木営業所発の路線の経緯については、申し訳ございません。承知しておりませんので分からないところですが、その甘木営業所発の路線の整備に併せて駐輪場を整備するなど、そういったことは連携は努めさせていただいてきております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 確かに駐輪場なんかもきれいに整備されて、そういった相乗効果といえますか、そういったことは本当にいいことだなというふうに感じております。

そういった中で、鉄道事業者と朝倉市、周辺自治体がウィン・ウィンの関係になるような、そういったやり方をしていって、少しでも利便性を向上するということが必要ではないかと思っております。

福岡市や久留米市への交通利便性を今よりも少し上げたいというふうに、私は願望として持っているんですが、何か少しでもいいですから、利便性を上げるということでしたらどういったことが考えられますでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 利便性向上という意味では、先ほども申しましたけど、駐輪場のほかに無料の駐車場を整備したりとかそういったことを、これからも努めてまいりたいと思っております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 繰り返しになるんですけれども、当然、資源といえますかお金には限りがありますので、このお金の使い方というのは優先順位があると思います。車両の更新であったりとか、安全、安心を守るため、これは基本中の基本ですから、これは無視ができないことなんですけれども。

しかし、それを怠っていると云ったら変ですね、それに対して後ろ向きになってしまって、保守的になってしまいますと、将来の生産的な投資というのができなくて、いつの間にかじり貧になっているというようなことが考えられるのではないかと思っております。

西鉄が実際では、この話にお金を出してくれるのか。4つの自治体が本当にこの話に乗ってもらえるのかということを考えれば、実現性は確かに厳しいだろうとは思いますが、できたら将来の朝倉市の人口が増えるという観点、切り口で行けば、私は可能性があるのではないかというふうに思っております。やはり、事業者の協力とかそういった部分を取りつける必要があるというふうに思っておりますが。

通告をしておりますでしたが、市長。この点につきまして、市長のお考えとか夢でも結構ですから、どういったふうにお考えなのか。

よくこういった話は、政治家であれば聞かされたことがあるのではないかと思うんですけれども、どのようにお考えなのか御意見をお聞かせいただければと思います。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） 甘木鉄道について、コロナ前の令和元年度は近年にない利用者数と経営実績を挙げました。コロナになりまして、大変厳しい状況が続いてきておりますので、市議会の皆様方の御理解もいただき、福岡県からの御支援もいただき、そういったことを2年間続けて、甘木鉄道の支援を行ってきたところであります。

このような状況の中にありまして、今、甘木鉄道沿線においては基山駅と小郡駅の開発等が進む、住宅が進む、そういったことで乗降客が増えていると。もちろん甘木駅を利用される方に対しても、他自治体も協働して駐車場もしくは駐輪場、各駅設置をすることでそういう努力をしながら、何とか甘木鉄道、なくてはならない鉄道でありますので、これまで維持に努めてきたところであります。

懸案でありましたレールとか枕木の交換は、おかげさまで令和3年度をもって、一応、終了をさせていただきました。危険箇所と言われる踏切等々も、順次改修をしてきたというところがございます。小郡駅、基山駅でのエレベーター設置の要望もいただいております。

今日、議員が「これは、あつたらいいんじゃないかなあ」ということで言われました小郡駅に直接乗り入れるという話もいただいているところではございますけれども、今、総務部長が答えましたように、現状なかなか厳しい状況でございます。

しかし、議員がおっしゃいますように、拡大するエネルギーを持つ福岡市、この本市、朝倉市との位置関係、交通関係、こういったことは極めて大切だと私も考えておりますので。ただいまは甘木鉄道を中心にお話しましたがけれども、これから先も福岡市、そしてまた交通事業者でありますJR九州、そしてまた西日本鉄道、そういった交通事業者とこれまでもいろいろと意見交換も私も、実はさせていただいております。最近も責任ある方とお会いして、具体的な話は非常に難しいところがございますので、そういった話になりますと、極めて、今後の朝倉市の駅周辺の開発等とも絡んでくる話でもありますので、慎重になりながら言われましたように、厳しいけれども、お互いウィン・ウィンの方策はないかといったことは、私も実は最近、申し上げたところでございます。

これから先、朝倉市が人口を維持していくため、そして元気を、特に福岡市都市圏等に求めるという方向性を考えたときに、議員がおっしゃいますように、でき得る限り、そういった関係の皆さん方といろいろと前へ進むようなお話をさせていただいたりということで、取組をさせていただきたいというふうに思います。よろしく申し上げます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） いきなりの質問で本当に申し訳ありませんでした。今、市長が首長、市長と西鉄の有力な方とのお話のパイプを持っている、前に進んでいこうというような気持ちがよく伝わってまいりました。

具体的には非常に厳しいというのは分かっているんですけども、しかし、前に進もうという、このエネルギーをやっぱり失ってはいけないのかなと思っておりますので。ぜひとも、いつか実現できますように、鉄道事業者との関係というのは良好な関係を保っていただきたいというふうに考えております。

私は、今回の質問をするに当たりまして、高校の先生とかにもヒアリングをしたんですけども、甘鉄沿線の三輪町の新しい住宅には、ここら辺じゃない人がいっぱい住んでい

るっておっしゃるんです。そういった甘鉄が便利になれば朝倉市にも。もう三輪町のところまでそういった人たちが来ているそうですから、朝倉市にもそういう人たちがいっぱいできるのではないかというふうに私は考えております。

馬田駅の周辺整備とかもしているということで、馬田とかも人口がこれから増えるんじゃないかというふうに私は期待をしておりますので、ぜひとも前に進むエネルギーを持っていただきたいと思っております。

では、すみません。時間がなくなってきました。次に、朝倉市の教育を魅力あるものにするということで、質問をさせていただきます。

交通利便性とか、これは後から質問するんですけども、良質な住環境とかが満たされれば、次にはやはり教育という要素が、居住地を決定するときの圧倒的な魅力になるというふうに考えております。

朝倉市は、管轄しているのは小中学校なんですけれども、この朝倉市の教育自体、それから教育環境というのに、果たして、私は魅力があるのだろうかという疑問を持ったのですが、朝倉市の教育や教育環境には魅力がありますでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 教育部長。

○教育部長（時津美穂君） お答えをいたします。朝倉市の教育環境の魅力は、もちろんございます。各学校にはそれぞれの校区に、自慢できます歴史や文化があり、教育資源として活用できます「ひと・もの・こと」がございます。

本市におきましては、これまで全小中学校が持ち回りで、特色ある学校づくり研究指定推進事業を受けながら、各学校の特色化を図ってまいりました。学力や体力を効果的に培うための授業等の研究や、心を育むための道徳や学活、学校行事の充実、そして地域の魅力を教材化しました、ふるさと教育の開発に取り組んでまいりました。

特にこのふるさと教育は、子どもたちが校区にございます、自慢できます「ひと・もの・こと」を体感し、地域の魅力を味わうことができる教育活動として発展してきました。現在は、どこの小中学校でも総合的な学習の時間等の中で、地域の魅力「ひと・もの・こと」を味わう取組がカリキュラム化されているところでございます。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今、「ひと・もの・こと」という言葉が出ましたけれども、これは後でお尋ねしたいと思っております。

もちろん、親御さんからすれば、学力的に成績がいいに越したことはないと思います。有名大学とかに楽々通る学力があるとか、そういったのがいいに越したことはないと思うんですが。私は、学力テストなどでは数値化されない、子どもの将来や人生を豊かにする力が、私は大事じゃないかと考えております。

非認知能力というんですが、生涯にわたって役立つ力であり、これを育てるためには、小中学期の取組が必要ではないかと思っております。

非認知能力というのは、学力に表される、知能指数のIQとかに表される認知能力とは違ひまして、それ以外の能力を広く表す言葉で、内面的なスキルを差しております。例えば、目標を決めて取り組むとか、意欲を持って取り組んで、なかなか諦めないとか、新しい発想をしてチャレンジをしていくとか、それから周りの人と円滑なコミュニケーションを取るといった、こういった能力が私は大事ではないかと思っております。

日本人の美德である、例えば、真面目さであったりとか、正直さとか、時間を守るとか、こういったことは、私は小中学生の時代に培われて、このしっかりとした基礎の上に、学力とかそういった専門的な知識とかが乗っていくのではないかと思っております。

その一方で、先ほどからも言うように、私は朝倉市に若い人たちが定住してもらうためには、朝倉市での濃密な時間、記憶に残って、朝倉市でああいうことをしたとか、例えば、運動会のときに、みんなで応援合戦をしたときに一生懸命やったとか、部活で一生懸命やって負けたけど、悔しい思いをしたけれども、楽しかったとか。そういった濃密な経験というのが、私は必要なのではないかと。この濃密な経験を与えることができれば、魚のサケのように、将来いつか朝倉市に。仮に大海に出ても、また戻って来るのではないかと、私は考えております。

こういった濃密な経験というようなことを提供するような朝倉市の教育の特色ってありますでしょうか。私がこう考えましたらば、秋月の稽古館の教えっていうのは非常に特色があって、秋月のほうに足を運んだときには、その片りんというのが、ところどころで見えていて、これは地域ぐるみの朝倉市の特色のある教育だなあと。これは多分、濃密な経験で、きっと秋月の子どもさんたちは、将来、帰ってくるだろうなど、私は個人的に思っております。

こういった特色のある教育というのを、朝倉市は「ひと・もの・こと」というふうにおっしゃいましたけど、具体的にはどのように提供していて、どういった事例があるのか。また、これを広めていくつもりがあるのか。こういったことをお聞かせいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

○議長（半田雄三君） 教育部長。

○教育部長（時津美穂君） 議員おっしゃいました、稽古館の教えについて、少し述べさせていただきます。

稽古館の教えは、江戸時代、秋月黒田藩の藩校、稽古館で伝わりました教育方針や内容を要約したものでございます。この中では、学ぶ者の心構えや、学び方をはじめ、教える側の心構えまでがまとめられております。

例えば、秋月中学校におきましては、この教えを生かしました教育活動が展開されており、地域の歴史が背景に位置づけられた教育が展開されているところでございます。

教育計画におきましては、総合的な学習の時間を基軸に、ふるさと教育として具現化されており、地域の偉人について学んだり、光月流太鼓の伝統芸能やほうけんぎょうといっ

た伝統行事を体験したり、茶摘みや梅ちぎり、防犯駅伝大会といった特色ある教育活動が実施されているところがございます。

これは、地域の魅力ある教育資源を教材化し、有効に学校教育に生かしている一例であるということができます。

また、市内のその他の地域におきましても、教材化できます魅力ある教育資源は、たくさんございます。各地域の歴史や文化を探れば、教材化できます「ひと・もの・こと」をたくさん見つけることができます。

例えば、十文字中学校を見ても、この地域は朝倉街道と英彦山へ向かうクロスロードに位置し、歴史豊かな地域でございます。

英彦山座主が院を構えたり、黒田本藩の筆頭家老が統治したり、国政で活躍する人物を輩出したりと、地域が誇れる、自慢できる「ひと・もの・こと」が豊富でございます。

現在、十文字中学校では、総合的な学習の時間に地域探訪という取組を計画して、地域の魅力を子どもたちが学ぶ機会を設けております。そこでは、地域の歴史的な成り立ちや地域を発展させてきた人物、おくんちなどの伝統行事、三奈木砂糖、そして水前寺のりといった特徴的な産物について、フィールドワークや聞き取りを行いながら、学んでいるところです。

自分が住むふるさとの魅力を知り、ふるさとを将来、自慢できます子どもたちを育てていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 私、議員として入学式とか卒業式に、よく呼ばれて出席をさせていただくんですけども、私の時代にくらべますと、人数的に随分少なくなったなあというのが正直な感想でございます。

やはり、分母が少なくなっておりますので。その分、少なくなった分、これをプラスと考えると、質の高い教育ができるのではないかと考えています。よく目が届くよな。そういった教育ができるのではないかというふうに思っております。

また、数はたくさんいないですけども、一人一人が活躍できるような、そういった時代になりつつあるのかなと。朝倉市が一人一人が輝くような、そういった生徒さんたちになってほしいなと思っております。

先ほど、人口減少の話を頭からしているんですけども、2014年の増田レポート、消滅可能性都市という増田レポートというのが出まして。これには、若年の女性人口が減少し続けると、人口の再生産の能力が低下して、総人口が減ってしまいますよと。だから、女性がキーですよというようなことも書いてありました。

今、多様性の時代ですので、女性の方にもやっぱり活躍してもらう必要があると思っております。女性であれ、男性であれ、いろんな価値観を持った人が風通しよく意見が言えて、それぞれ活躍できる、そういった教育が、私は必要ではないかと思っております。

その一方で、地域の特色ある教育、これは濃密な経験を残して朝倉が大好きだと、自分のふるさとが大好きだと。そういった子どもが育つのではないかと。将来旅立って、大きく羽ばたくかもしれないけれども、最後は朝倉に帰ってくる。そういった子どもたちになってほしいと思っております。

教育長、朝倉の特色として、教育長はどういった教育をしたいと考えていますでしょうか。御意見をお聞かせいただければと思います。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） ただいま議員が申されましたように、例えば、秋月中学校の稽古館の教え。これも、私も在籍した時代がございまして、よく存じ上げているんですけども、これは、やはり稽古館の文武恒例から引用したもので、これは学び方、学習の仕方の基本的な考え方という、基礎基本をやっぴり徹底的に江戸時代につくられたもの。それを現代版にされているということです。

ほかにも、市内の学校にはこのような特色のある活動をしてある学校が、実は、たくさんございます。

今、部長が申しました以外にも、例えば、甘木中学校では、愛と誠の精神という、こういったものもございまして。また、南陵中学校、福田小学校、これは磨心運動といいまして、これも文科省の昔の指定を受けて、続いてから今まで脈々と続いたものもございまして。また、蜷城小学校では御存じのとおり、水害からの青少年赤十字の精神。これもきちっと、地域または子どもたちに根づいておられます。また、朝倉東、大福小学校、これは山田堰、堀川用水を通した地域学習。これも今でも行われております。そして、杷木小中学校です。これは、防災教育など。

それぞれの地域であるとか学校がたどってきた歴史、これを基にした学校運営というのを現在も続けておるところでございまして。そういった意味では、それぞれの学校の特色化というのは、朝倉市の小中学校は、他の市町村等に比べては特色はあるというように認識を私にはしているところでございまして。

実は、昨年度ぐらいから少し、朝倉市全体では何かこういった、ある程度統一した、子どもたちの学び方。そういったものはできないかというのは、実は昨年度から考えてまいりまして。今日、この後ちょっと御紹介いたしますけれども。

朝倉市の小中学校の令和の教育十訓と名を打ちまして、こういったものをちょっと作らせていただいております。この場をお借りしまして、簡単に御紹介をしたいと思っております。

読み上げさせていただきます。

1、早寝早起きをしよう。2、朝食をしっかりとうろう。3、家の手伝いをすすんでしよう。4、興味・関心を持って授業に参加しよう。5、みんなと考えを出し合い、見方や考え方を広げよう。6、心をこめて掃除しよう。7、笑顔であいさつしよう。8、こまった

時は相談しよう。9、約束やきまりを守ろう。10、SNSの正しい使い方を身につけよう。ということでございます。

お分かりのように、非常に平易な言葉で書かせていただいて、小中学生でも分かるようなものを作ってまいりました。そして、これは本年の4月から、各学校のほうには周知をしているところで、今から各学校のほうで取組が始まるというふうに考えております。

この特色と言いますと、1番から3番、これは主に、やはり昔から言われています基礎的な生活習慣、実は、この1、2、3というのが、毎年、小学6年生、中学3年生では、全国学力学習調査っていうのがございまして、そのときに子どもたちへ聞く質問紙の中で、質問項目が同じようございます。

実は、この1番から3番、ないし10番。これは朝倉市は全国平均、県平均よりも若干低いというのが近年続いておりますので、これは、あえて入れております。

そして、今日的な教育観で言いますと、これは4番、5番。これは、令和の教育というのを全国的な、これは文科省が申し上げている、令和の個別最適な学び、協働的な学びというのがございまして、それをこの中に盛り込んでおるところでございます。

なぜ、こういった朝倉市の小中学校でこういった教育訓を作らなければならないかと申しますと、先ほど申しましたように、やはり市内においてもそういった基礎基本の生活が、やっぱりなかなか築けられていない場合も見受けられてきたというのが現状というところでございます。

こういったのが少しずつでも浸透していくならば、議員が言われるように、日本人の特性であるとか、そういったものを磨く教育がさらに進んでいくのではないかなと考えております。

先ほどから申し上げましたけれども、不易と流行という言葉。これも以前も使わせていただきましたけれども。やはり、この不易の部分、これは、ふるさと教育。これが不易に当たるのではないかと考えております。

議員が言われますように、将来、ふるさと朝倉に帰ってきたいと、または郷土朝倉のために何かをしたいというような子どもたちを育てていただくというのが、非常にありがたい。それを目指すところでございます。

ただ、このふるさと教育、今、申し上げてまいりましたふるさと教育というものは、すぐには結果が表れにくいのではないかと推測をしております。

しかし、大変、大切な、いわゆるシビックプライドです。議員の言われますようなシビックプライドであり、各小中学校でもその重要性というのは、学校の中でも認識をしております。

その上に、先ほどから申されました、いろんなこれに私的な教育、そうしたものを積み重ねていきたい。その基盤づくりが、まずは小中学校できちっとやっていく。これが、現在、今からの朝倉市の教育の基本になるのではないかとというふうに考えているところござ

ざいます。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今日、初めて令和の教育十訓というのを見させてくださいなんですけれども、非常にいいなあというふうに思っております。これが、多分大人になっても、これがそらんじることができるような生徒さんがいて、これがすんなりと体の中に入っていたら、きっと優秀ないい大人になるんじゃないかなと。学力だけじゃなくて、本当に一本筋の通った、そういった大人になって、ふるさとのために貢献してくれるんじゃないのかと期待しております。

少し時間があるようですので、ちょっと脱線するかもしれないんですけども、小中学校が朝倉市の守備範囲というふうに申しあげましたけれども、近年、地元の高校でも定員割れなんかが目立つようになってまいりました。

こういった中で、私は、小中高の連携というのが、もう必要な時期に来ているのではないかと。高校は県の守備範囲ですけれども、連携をしていかないと、それこそどんどん優秀な学生さんが遠くの私立の学校に行ったりして、流出してしまうのではないかと心配しておりますが。その連携の必要性ということについては、いかがお考えでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） ただいまの御質問、小中高の連携。小中の連携は、以前からずっとやっております、今度は高等学校との連携をいかに図っていくかということでございます。

今までの事例を幾つか最初、時間ございませんけれども、紹介をさせていただきます。以前から市内の中学・高校、それぞれの授業などの参観、これは教員も生徒さんも、行ってまいっております。

また、近年では、市内の中学校1年生が市内の高校に赴いて授業を見たりするという、キャンパスウオーキングなどを、昨年度ぐらいからこれは初めております。

今後は、やはり朝倉市、筑前町、東峰村、大刀洗町、うきは市、地区は県内の高校区分で言いますと7学区と申しますが、この生徒数が、中学生が特に減少してきている地域でございます。ですからやっぱり現実味は、なかなか帯びてきているなという考えであります。

いまからは、この7学区、先ほど申しあげました5つの市町村の教育委員会で連携を取りながら、バックアップすべきところは積極的にバックアップをしていきたいというように強く感じているところでございます。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 7学区の生徒さんが減っているということで、やっぱり分母が減っていくということは、環境、時代の流れで仕方がないのかもしれませんが、私は

これには抗うべきだと考えております。

今までは小中高の連携というのはなかったかもしれませんが、今はもう一体となってやっついていかないと、地域を維持するのは難しいのではないかと考えております。

高校のほうにヒアリングに行きましたところ、こんなことを言われました。杷木から甘木までのバスが朝ぎゅうぎゅうでどうしようもないということを言われました。

これは、もう高校ではどうしようもできないんだと。行政、政治の力で何とかやっついてくれないかっていうことを、私は言われました。そのとおりだなあと思いました。

また、子どもが大きく羽ばたくためには、大人として、そういった障害を取り除いてやる必要があるのではないかと考えてもおりますが、バスの話だけではありませんけれども。市長、小中高の連携については、どのようにお考えでしょうか。御意見をお聞かせいただければと思います。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） 以前にも議会等でお話をさせていただいたかも知りませんが、朝倉市には大学がないと。それから、私立の中等高等教育機関もないという現状であります。こういう中に、朝倉市では福岡県立高校が3校あるということでもありますので、これまさしく朝倉市の大切な地域資源であるというふうに捉えております。それも子どもたちをしっかりと育てる、教育をする、社会に送り出す、大切な役割を果たしているということでもございます。

また、現在、高等学校あるいは大学もそうだと思いますけれども、やっぱり地域との関係をしっかりとつながって教育をやっていくという1つの大きな流れもございます。

こういったことでございますので、3校それぞれ定数確保等に大変努力をされておられます。そして、特色ある学校、活動で、その成果が出てきている学校もございます。

始業時間を繰り下げることによって、遠くから中学校卒業生を集めている学校も出てきておると。それぞれ高校も工夫されておりますので、当然、私としてはしっかりとそれら学校とよく話し合いながら、できる御支援をやっついていこうと。高校生の提言といったものも、しっかりと捉えていただいているということもございますので、連携してやっついていきたいというふうに思います。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） そうです。高校生の提言というのを今度、市役所でもやっておりますので、これもきっと濃密な経験として将来、若者が朝倉市に帰ってきてくれるきっかけになるかもしれません。

朝倉市は、福岡市に近いという地の利があります。この地の利を生かせれば、まだまだ伸びしろはあると思っておりますので、前に進むエネルギーというのは、失ってはいけないと思っております。そのために何をすべきか、今日、2つしか意見は述べられませんでしたけれども、議員として職責を果たし、市役所の皆さんと一緒に頑張っていきたいと思

っております。

これで終わります。

○議長（半田雄三君） 10番中島秀樹議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。11時10分に再開いたします。

午前11時1分休憩